# 静岡高教組　第６５回　定期大会

２０１３年　２月２３日

## 執行委員長あいさつ

話す機会があるごとに笑ってくれるだろうと期待するが、喜ばしい話があまりなくて思ったような反応がなく、自信をなくしている。地味に無難にあいさつしなくては…。

いじめ体罰は学校現場からしめださなければならない。しかしその背後には、教職員が追い詰められている状況がある。第一次安部内閣のときに教育基本法が改悪された。道徳の教化、愛国心の強要によって、内心の自由を侵すものと心配していたが、その通りになっている。自衛隊を自衛軍にするなど、憲法改悪の危険性もはらんでいる。

教育改革が進んで２年目になる。病休が２倍になり、８５００人が休職している。

さらに追い打ちをかけるように、高教組は妥結していないが、退職手当の削減だ。７．６％カットも許さない。

このような三重苦の中で教職員は子どもたちと向きあっている。もう限界にきている。

それなのに、公務員バッシングすれば政権を取ることができると言う人たちが政治を独占してしまった。昨年の選挙も自民党圧勝のように見えるが、その政権基盤はもろい。原発廃炉を求める世論も大きい。

復古調と新自由主義。それを支える財界の魂胆は、自分たちの企業だけが世界に通用すればよいというもの。ローソンの社長が賃上げすると言うが、２０万人の従業員のうち正社員はたったの１万数千人。あとは非正規。しかも賃上げするのは、ボーナス部分だけのようだ。

財務大臣の麻生が「内部留保」という言葉を使った。「それを取り崩せば…」というのにはおどろいた。安部は企業には賃上げを求めながら、公務員の７．８％カットは譲らない。ここで闘わないと…

## 来賓あいさつ

「春闘要求アンケートの回答で､『生活が苦しい』と半数が答えた。１万円以上の賃上げ要求する声が８０％。我慢の限界にある｡勤務実態調査の中間まとめによると､時間外勤務が平均で月９０時間以上を越えている。病休職が増えるわけだ｡民間賃金を上げなれればわれわれ公務員の賃金を守ることはできない｡賃金､雇用､暮らしの改善を掲げて闘いを進めている。

高校生の憲法調査を行い、１２３２６人から回答を得た。九条については６３％が守ってほしいと答えて

いた。原発ゼロの世論も盛り上がっている。いま憲法を生かした主権者教育が求められている。」

「富士通総研レポートでは、好景気を生かして国民に経済的利益を得たという実感を持たせることができなかったと総括していた。内部留保を貯めこみ、株主に利益が偏り、いま賃上げしないととんでもないことになると提言している。

賃上げしないとデフレ脱却にならないという世論は広がっている。それなのに政府は逆なことをしている。最低賃金に連動して生活保護を切り下げ、非正規労働者をさらに増やしている。そこへさらに公務員賃金を７．８％削減したらどうなるのか。国民の怒りの火の手が上がっている。」

## 討論

「春闘要求書をすべての分会で提出してほしい。４月末までに回答を受けるかあるいは交渉をもってほしい。

春闘といってもなかなか力が入らないかもしれないが、民間の賃金が上がらないと公務員も上がらない。みんなで一斉にやることに意味がある。

校長協会も毎年、県教委に要望書を出しているが、内容は組合の要求とほぼ同じだ。千葉県では校長が組合といっしょに県に要求しているという。」

「人事評価制度に関するアンケートに取り組んでいる。集計結果は職場新聞として公表してほしい。評価者である管理職に対する逆評価という意味合いもある重要な取り組みだ。いまのところ、県は賃金リンクについては『研究中』だという。それは実施する予定はないということであり、全国的には評価できる姿勢だ。高教組のたたかいの成果でもある。」

「職員の５割以上の５０人がアンケートに回答してくれた。評価制度に賛成は、１２％。いままでで最低だった。反対意見も最高に多く、授業を見ていないのに評価できるのかなど制度自体がおかしいと指摘する声が多数寄せられた。組合が動けば変わっていくし、自分も職場も元気になる。」

「評価制度アンケートをやったところ、予想以上に反応してくれて、すぐにたくさんの回答が集まった。

若い人たちに仕事が集中しているのか、年配が給料相応の

仕事をしていないと不満を感じている人が多くなっているような気がする。年齢による分断が作られているようだ。」

「ＰＴＡ会則改変が行われている。監査委員会が、ほんらい公費が足りないことを追及すべきなのに、予算が足りないために窮余の策としてＰＴＡ会費など私費で補っている部分の使い方を問題にしたことが発端だ。進路費や教育振興費などをＰＴＡ会費にくみこみ、教師からも会費を取ることにして、つじつまを合わせようとしている。今後のＰＴＡのあり方を検討することと同時に、公費不足問題を隠し、ＰＴＡの任意性との齟齬が生まれるような改正には注意を払わなければならない。」
「保護者の加入を勧められなくなるという理由で教師は全員加入という提案だったが、職員会議で問題になり、多くの反対があって、教師も加入は任意であるように修正した。」
「教科の研究会への会費を出すために、と理由付けにしている校長もいる。教科の研究会はあくまで自主的な研究会である。学校加入で会費もＰＴＡ会費から出すとなると、校長会の下部組織になって参加を強制されたりしかねない恐れがある。」

「退職手当削減問題。県教委は条例の施行日を最初４月１日、３月３１日を考えていたようだが、結局３月２０日にされてしまった。圧力に屈したのだろう。３月１９日までに退職することが、私たちのたたかいである。嫌がらせを言う校長もあるようだが、不利益はないと県教委も確約している。堂々と誇りを持って退職しよう。」
「３月１９日退職する人に対して校長も協力的だ。職場でも、当然やめるべきだという雰囲気。」
「わたしは１９日に退職するが、全員が１９日ではないのでスッキリした気分ではない。」
「今年の人は誇りを持って退職できない。組合としてはほこりを持って退職できるようにバックアップしたい。」

「最近は裁量枠と名が変わったが、部活による事前選抜が問題だ。入学した生徒は、顧問の言いなりになり、体罰も当然となる。われわれもそれを放任してきた。１９９０年頃には、式典中であろうと怒鳴る、殴るもあたりまえだった。そうやって指導主事になった人もいる。教育委員会もそれを容認してきた。自殺をもみ消した事件もあった。暴力を克服すると言う伝統が静岡県にはなかったではないか。さらに、体罰問

題を利用して教育支配を強めようとする意図も見える。」

「実績を残している運動部の体質と闘うにはエネルギーが必要だ。格技場が二度燃えたことがあったが、その部の指導に問題があると指摘するときにはからだが震えた。多くの生徒が傷つき、オリンピック候補の生徒はその顧問を避けて、他の学校を希望していった。体罰の根本を考える必要がある。罰掃除や写経をやらせるのも体罰なのではないか。」

「生徒が就職試験に落ちてくると、人格を否定されたような感覚を受けている。進路指導が、競争を前提とした勝つための指導でしかない。企業の要求にうまく応えられるか、では救われない生徒もたくさんいる。若い人たちを育て、働き口を広げる取り組みが必要だ。」

「主任手当て拠出金による奨学金の原資があと４年でなくなる。呼びかければ、主任手当てだけでなく財源は確保できるはず。年度始めに一筆書き、途中にもチラシを配り、年度末にも礼状を書く。さらに、新聞カンパの裏にも奨学金カンパを募集し、毎年４万円くらい集まっている。主任手当てだけでなく、管理職も１万円以上カンパしてくれる。

「主任手当拠出をお願いしにくい面もある。昔とは主任の忙しさが違う。担任は学年主任に相談。修学旅行から進路までいろいろな仕事が主任に集まる。手当てもらって当然と言う感覚も。学年の分掌を決めるときに、分担しないと。」

最後に団結がんばろう。